

記念展 松岡鼎展～柳田國男を導いた兄～開催中!

記念展の展示内容については、中面をご覧ください。

松岡五兄弟の交流と國男の渡欧



福岡町立 柳田國男・松岡家記念館 〒679-2204 神崎郡福岡町西田原 1038-12 電話：0790-22-1000



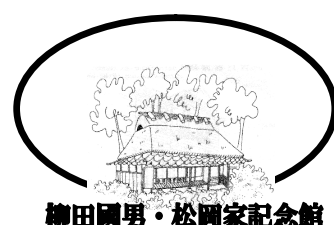
左から輝夫、静雄、國男、鼎、通泰 大正10年12月15日(個人蔵)

名作著書紹介 故郷七十年を 読む 国際連盟常設委任統治委員会に参加するために、ジュネーブを訪れた國男は、言葉の壁を克服しました。『故郷七十年』には、國男は言葉さえ話すこと

ができていれば「かなりの難問題が解決せられるのにと痛感させられた」とあります。そして、言葉の問題を解決するために、国際連盟でエスペラント(国際共通語)を採用する決議案を出そうとしたところ、イギリスやフランスだけだけでなく、他の国々のたいへんな反対にたい、とうとう実現できなかつたと記しています。

柳田國男は、大正10年(1921)から大正12年まで、国際連盟の常設委任統治委員をつとめました。第1次大戦後、国際連盟は委任統治という制度を創設しました。これは、国際連盟の委任を受けた戦勝国が、敗戦国を新たな植民地とせず統治するというものです。

国際連盟には常設委任統治委員会が設立され、この委員として國男が選ばれました。そして、スイスのジュネーブで行われた、第1回国際連盟常設委任統治委員会から帰国した國男を祝う会で撮影されたのが、上の写真です。鼎は、前年の大正9年に千葉県医師会長に就任しています。そして、大正10年に、通泰が編集した昭憲皇太后の歌集が完成し、静雄はオランダ政府より日蘭文化交流の功績を認められてオランダエ・ナツソウ勲章を受章し、輝夫(映丘)は自身が顧問となり新興大和絵会を結成しています。このように活躍する五兄弟の交流場面を写した写真が遺っているのです。



柳田國男・松岡家記念館

福岡町子どもふるさと展

今年度も、福岡町子どもふるさと展を開催します。

本展では、第3回福岡町柳田國男ふるさと賞に応募いただいた作品を展示します。

福岡町内の小中学生が、夏休みに地域の歴史、文化について調べた力作をご覧ください。

会期：10月10日(土)～11月23日(月・祝) 会場：柳田國男・松岡家記念館 2階

ぜひ、家族そろって お越しください。

福岡町・遠野市友好都市交流事業

昨年度、友好都市となった福岡町と遠野市が、文化交流のための展示をします。

両展示をとおして、互いの理解を深めましょう!

福岡町の展示 「柳田國男生誕の地 福岡町～『故郷七十年』にみる國男のふるさと～」 会期：10月10日(土)～11月8日(日) 会場：遠野市立博物館 休館日：10月31日(土)、11月2日(月)

遠野市の展示 「遠野物語と妖怪」 会期：10月31日(土)～11月15日(日) 会場：柳田國男・松岡家記念館 休館日：11月2日(月)、4日(水)、9日(月)

生誕140年 柳田國男展 日本人を戦慄せしめよ - 「遠野物語」から「海上の道」まで 会期：10月3日(土)～11月23日(月・祝) 休館日：月曜日(10月12日、11月23日は開館) 開館時間：9:30～17:00(入館は16:30まで)

館日記 神奈川近代文学館で、左記のとおり「生誕140年 柳田國男展」が開催されます。 この展覧会には、当館が貸し出した柳田國男直筆原稿や鼎、井上通泰、静雄、映丘の資料、計18点が展示されています。 詳しくは、神奈川近代文学館(TEL045・622・6666)までお尋ねください。

松岡 鼎展 かなえ ～柳田國男を導いた兄～

会 期：11月23日（月・祝）まで
 会 場：柳田國男・松岡家記念館

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）
 休 館 日：月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日

鼎のもとには、鼎や家族・親族の写真とともに、國男をはじめとする兄弟の写真が遺されています。この中には、兄弟たちの幼少期から学生時代にかけての姿や、表面で紹介した五兄弟がそろった写真があります。こうした写真が鼎のもとで大切に保管されていたことから、兄弟たちにとって鼎が親代わりであったと考えられます。

兄弟の成長を写した写真



通泰（19歳）
 明治17年



國男（23歳頃）
 明治30年頃



静雄（23歳頃）
 明治33年頃



輝夫（24歳）
 明治37年

※写真はすべて個人蔵

福崎の古墳の魅力 ②福崎町の大きな古墳(Ⅲ)

ひがしひろはた
東広畑古墳（北野） 町指定文化財

東広畑古墳は、福崎町西田原の田の中に立地する、墳丘が直径約16mの円墳で、無袖式の横穴式石室を有しています。

平成5年度のは場整備にかかるとる発掘調査の前は、墳丘の盛土がほとんど流出し、石室の石材だけがのこっている状態でした。しかし、発掘調査によって、多くの土器や鉄器がみつかり、6世紀後半につくられた古墳であるということや、本来の古墳の大きさ、他地域との交流のようすなどがわかるようになりました。

東広畑古墳は第4次調査まで行われていますが、平成9年には町指定史跡になりました。元々は石材しかのこっていないようにみえた古墳でしたが、長年の時を経て、私たちに多くの情報を提供してくれています。

平成20年度に行われた復元整備によって、東広畑古墳は古墳時代当時に近い姿に復元されました。
 銀象嵌が施された大刀や馬具、鉄鍬などの鉄器や、須恵器

耳環（写真2）、勾玉などがみつかっていました。中でも、祭祀用の須恵器であると考えられる装飾付須恵器（写真1）や子持付器台などがみつかったことも、東広畑古墳の特徴の一つです。



写真2 耳環



写真1 装飾壺の小像（馬、人物、小壺）